

令和6年4月17日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が3月下旬～4月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照すること。

### 千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (3月下旬～4月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	イネミズゾウムシ	少	2月畦畔0.25㎡土壤中成虫数：少【0.01頭/1.33頭】(-)	19
	ヒメトビウンカ	多	2月畦畔3㎡吸い取り成幼虫数：多【4.74頭/1.79頭】(+)	21
	イネクロカメムシ	やや少	2月畦畔0.25㎡土壤中成虫数：やや少【0.01頭/0.07頭】(-)	-
	イネドロオイムシ	並	前年6月の成幼虫蛹寄生株率：並【2.34%/4.92%】	19
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	やや多	冬季気温(12月～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値)：高(+)	19
冬 春 ト マト	うどんこ病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/2.83%】(-) 気象予報：日照時間並	30
	灰色かび病	並	発病株率：並【14.80%/14.48%】 気象予報：日照時間並	31
	コナジラミ類	やや多	成虫寄生株率 オンシツコナジラミ：並【0.00%/0.92%】 タバココナジラミ：多【0.80%/0.12%】(+) 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや多【2.42頭/3.67頭】(+) 気象予報：気温高(+) 日照時間並	33

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (3月下旬～4月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
スイカ	つる枯病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高(+)降水量並	-
	うどんこ病	多	発病葉率：多【0.40%/0.00%】(+) 気象予報：日照時間並	-
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：並【0.20%/0.22%】 気象予報：気温高(+)降水量並	41
	ハダニ類	並	成虫寄生葉率：並【0.20%/0.14%】 気象予報：気温高(+)降水量並	-
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【1.00%/0.20%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【7.20%/4.50%】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並	28
カーネーション	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/1.92%】 気象予報：気温高(+)日照時間並	-
	アザミウマ類	やや多	被害株率：やや多【12.80%/10.48%】(+) 成幼虫寄生株率：やや多【2.40%/1.04%】(+) 3月黄色粘着トラップ誘殺数：並【3.56頭/6.08頭】 気象予報：気温高(+)日照時間並	-

\*黄色粘着トラップ誘殺数：438cm<sup>2</sup>の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

### (1) イネクロカメムシ（イネ）

越冬成虫の水田への侵入時期は5月下旬から6月である。苗箱処理剤での防除では6月まで効果の持続する薬剤を選択する。平成30年度試験研究成果普及情報「イネクロカメムシの発生生態と効果的な箱施用剤」も参照する。



### (2) スクミリンゴガイ（イネ）

千葉県HP、環境農業推進課の「ジャンボタニシ被害防止対策」も参照する。



### (3) つる枯病（スイカ）

ほ場の排水を良くする。多湿を防ぐため、トンネルの換気を適切に行う。

## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### スイカうどんこ病の発生拡大に注意

4月上旬に、トンネル栽培のスイカ生産ほ場10か所（富里市・芝山町）で病害虫発生予察調査を実施したところ、うどんこ病の発病株率が0.40%（2014～2023年は発生なし）と、過去11年で最も早く発病を確認した（図）。

また、調査年数が少ないため傾向は明確ではないが、ハウス栽培のスイカ生産ほ場10か所（富里市・芝山町）の3月上旬調査でも、うどんこ病の発病を確認している（過去4年で2回発生確認）。

本病は、寡日照や、乾湿を繰り返す条件で発生しやすい。また、いったん発生すると、薬剤での防除は困難であることが多い。向こう1か月の気象予報（4月11日気象庁発表）では、気温は高く、降水量及び日照時間は平年並とされている。

しかし、以上の状況から発生が拡大する可能性があるかとみられるので、注意が必要である。

#### <被害>

主に葉や茎に発生する。葉では円形に白い粉をふりかけたような症状が現れる（写真1）。病勢が進むと、葉の全面が白粉に覆われたり（写真2・3）、葉枯れを生じることもある。

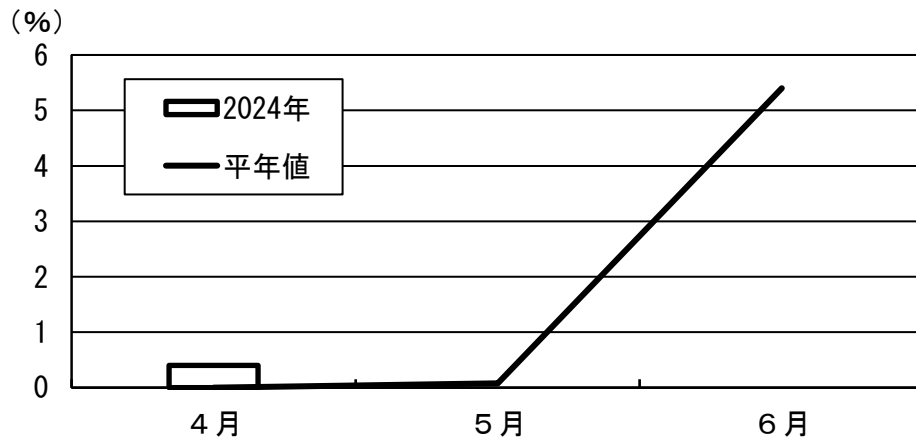


図 スイカうどんこ病の発病株率の推移（トンネル栽培）



写真1 台木子葉に発生したうどんこ病



写真2 写真1の裏のうどんこ病



写真3 病勢が進んだうどんこ病

<防除法>

1 耕種的・物理的防除

- (1) トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。
- (2) 発病部位は伝染源となるため早急に取り除き、適切に処分する。  
特に、定植時に子葉の葉裏での発生を確認する。

2 化学的防除

- (1) 病勢が進展してからの防除は困難なので、早期発見に努め、発病ごく初期から薬剤防除する。
- (2) 登録された農薬を用い、葉裏や下位葉にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRACコード（下表※1参照）を参考に、ローテーション散布を行う。
- (4) 薬剤防除の際は、登録内容を十分確認し、特に使用時期には注意する。
- (5) 薬剤の選定について疑問点等がある場合は、普及指導員等に相談する。

表 スイカうどんこ病の主な防除薬剤（令和6年4月10日現在）

FRAC コード ※1	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数 ※2
3+U6	パンチョTF顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内
7	アフェットフロアブル	2,000	収穫前日まで	3回以内
7	パレード20フロアブル	2,000~4,000	収穫前日まで	3回以内
7+11	シグナムWDG	1,500~2,000	収穫前日まで	3回以内
9	フルピカフロアブル	2,000~3,000	収穫前日まで	4回以内
9+U13	ショウチノスケフロアブル	2,000	収穫前日まで	2回以内
19	ポリオキシシナル水溶剤	1,000~2,000	収穫3日前まで	5回以内
M2	イオウフロアブル	500	発病前~発病初期	—
M7	ベルコートフロアブル	1,000	収穫前日まで	4回以内
M10	モレスタン水和剤	2,000~4,000	収穫3日前まで	5回以内
NC	ハーモメイト水溶剤	800~1,000	収穫前日まで	—
未分類	サンクリスタル乳剤	300~600	収穫前日まで	—

※1 FRACコード：殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

## ビワを加害するカメムシ類の発生について

ビワを加害する果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシを主体として、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシがあげられる。3種とも成虫で越冬し、越冬量が多い年には、5月中旬頃から6月にかけて収穫時期となる露地栽培のビワに多大な被害をもたらす。

昨年9月にチャバネアオカメムシ早期発生予測モデルを用いて、本年4～7月までの南房総地域におけるチャバネアオカメムシの発生量を予測した結果、多発生と予想された（令和5年度病害虫発生予報第6号「Ⅱその他の情報」を参照）。

4月10日までに果樹予察灯ではチャバネアオカメムシは誘殺されていないが、気温が上昇すると果樹カメムシ類の活動が活発になり、ビワの果実に被害が発生することが懸念される。向こう1か月の気象予報（4月11日気象庁発表）では、気温が平年より高くなるとされていることから、今後果樹カメムシ類の多発生が予想されるので注意が必要である。

### <防除対策>

- 1 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行う。
- 2 露地ビワは5月下旬から収穫期に入るため、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

表 ビワでカメムシ類に登録がある主な防除薬剤（令和6年4月10日現在）

IRAC コード ※1	薬 剤 名	希釈倍数	使用時期／使用回数 ※2
3 A	テルスター水和剤	1,000～2,000	収穫前日まで／2回以内
	テルスターフロアブル	3,000	
	ロディー水和剤	2,000	収穫前日まで／4回以内
4 A	アドマイヤーフロアブル	2,000	収穫7日前まで （但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く）／2回以内

※1 IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

3 A：ピレスロイド系

4 A：ネオニコチノイド系

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

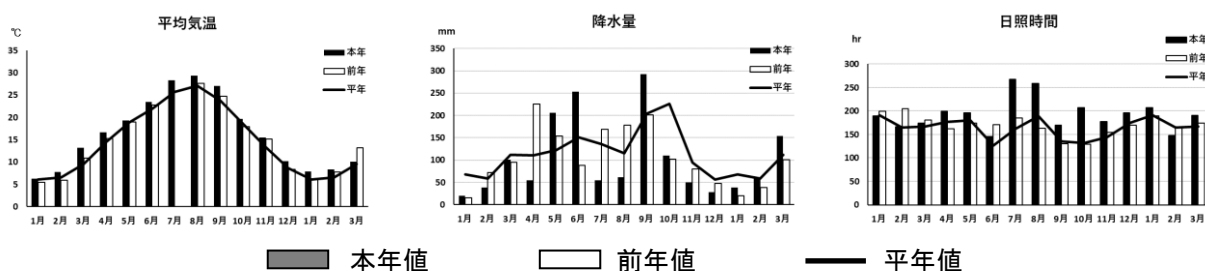
注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

### Ⅲ その他の情報

#### 令和5年度における農作物の主要病害虫の発生状況について

##### ○気象概況（千葉市）

		気温(°C)			降水量(mm、%)			日照時間(hr、%)		
		本年	平年	差	本年	平年	比	本年	平年	比
2023	1月	6.3	6.1	0.2	20	68	30	189	192	99
	2月	7.8	6.6	1.2	38	59	64	167	165	101
	3月	13.2	9.6	3.6	101	111	90	174	168	104
	4月	16.7	14.5	2.2	55	110	49	200	177	113
	5月	19.3	18.9	0.4	206	122	168	196	181	109
	6月	23.5	21.9	1.6	254	151	168	146	127	115
	7月	28.3	25.7	2.6	55	137	40	267	163	164
	8月	29.4	27.1	2.3	62	116	54	258	189	136
	9月	27.1	23.8	3.3	293	205	143	169	135	126
	10月	19.7	18.6	1.1	110	226	49	207	132	157
	11月	15.5	13.4	2.1	50	94	53	177	144	123
	12月	10.2	8.6	1.6	28	57	48	196	175	112
2024	1月	7.9	6.1	1.8	38	68	56	207	192	108
	2月	8.3	6.6	1.7	60	59	102	148	165	90
	3月	10.1	9.6	0.5	154	111	139	191	168	114



2023年1月から2024年3月までの気象概況（アメダス千葉、銚子地方気象台提供）

気温：3月から9月は平年に比べて高く、観測史上最も暑い年となった。10月以降はほぼ平年並となった。なお、冬期も1月、2月と極値を更新するなど、かなり暖かい冬となった。

降水量：5月、6月と平年を上回る降水があった。9月8日に線状降水帯が発生し、局所的に大雨となった。10月以降は平年の半分程度の降水となった。

日照時間：7、8、10月は特に平年より多くなった。

参考：梅雨入り：6月8日頃（平年6月7日頃） 梅雨明け：7月22日頃（平年7月19日頃）

○ 病害虫発生状況(巡回調査・フェロモントラップ調査)

1 イネ(4～8月上旬調査)

病害虫名	調査項目	育苗期	5月7日 基準日	6月2日 基準日	7月2日 基準日	7月16日 基準日	7月30日 基準日	収穫期
いもち病	発病苗箱率	並						
	葉いもち発病株率			並	並		やや少	
	葉いもち上位2葉 発病葉率						やや少	
	穂いもち発病株率						やや少	やや少
ばか苗病	発病苗箱率	やや多						
スクミ	被害株率		やや多	やや多				
リンゴガイ	貝密度(/㎡)		並	やや多				
大型斑点米 カメムシ類	捕獲成幼虫数				多	多	やや多	並

2 普通作物

(1) サツマイモ(6～10月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月	10月
ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	並	並	並	並	やや多
ナカジロシタバ	寄生幼虫数	並	やや少	並	並	やや少
イモキバガ	被害葉率	やや少	やや少	並	少	やや多
イモキバガ 以外	被害葉率	やや多	並	多	やや多	並

(2) ラッカセイ(7～9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月
茎腐病	発病株率	多	並	並
白絹病	発病株率	並	並	やや少
ヒョウタンゾウムシ類	被害株率	多	多	やや多

3 野菜

(1) スイカ(トンネル栽培)(4～6月上旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月
うどんこ病	発病葉率	並	並	やや多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	やや多	やや多	並
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	多	多	並

(2) サトイモ(6～9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
汚斑病	発病葉率	並	並	並	やや多
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	並	並	やや多
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや少	やや少	やや多	並

## (3) 夏秋トマト (7~10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月
萎凋症	萎凋株率	並	やや少	多	並
すすかび病	発病株率	やや多	並	やや少	並
灰色かび病	発病株率	並	多	やや少	やや少
灰色かび病	発病果率		並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	並	多	やや多	並
うどんこ病	発病株率	並	並	並	やや少
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	やや多	やや多	やや多	やや少
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	多	やや多	やや多
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	やや少	並	やや少

## (4) 冬春トマト (12~4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	多	並	やや少	少
灰色かび病	発病株率	並	並	やや多	並
灰色かび病	発病果率	並	並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	多	並	やや少	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	並	並	多	多
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	多	多	並
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並

## (5) 秋冬ネギ (7~12月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さび病	発病度	やや少	やや少	並	並	並	並
べと病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アブラムシ類	寄生株率	並	並	並	並	やや多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	並	並	並
シロイチモジヨトウ	被害株率	並	多	多	多	多	多
ネギコガ	被害株率	並	並	やや多	やや多	やや多	並
ネギハモグリバエ	被害度	少	やや少	やや多	やや少	並	並

## (6) 冬レタス (11~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	やや少	やや少
オオタバコガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

## (7) イチゴ (10~3月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや少	並	やや少	やや少	並	並
灰色かび病	発病株率	並	並	並	並	やや少	少
アザミウマ類	成幼虫寄生株率	並	並	多	並	並	並
ハスモンヨトウ	被害株率	多	並	多	やや多	やや多	並
コナジラミ類	寄生株率	並	少	やや少	少	やや少	やや少

## (8) 冬キャベツ (10~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	並	やや多	やや少
黒腐病	発病度	並	やや多	並	並	やや多
腐敗病	発病株率	並	並	並	並	並
ヨトウガ	卵幼虫寄生株率	並	並	並	並	並



## (9) 春キャベツ (12～4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
タマネギウワバ	寄生幼虫数/10株	並	並	並	並

## (10) 冬春キュウリ (11～2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
うどんこ病	発病葉率	少	少	やや少	少
べと病	発病葉率	やや多	多	やや多	やや多
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	少	やや少	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	並	やや多	やや多	並
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	並	並	並

## (11) チョウ目害虫 (フェロモントラップ調査)

病害虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ハスモンヨトウ	やや多	やや少	少	並	並	並	並	並	多			
コナガ	並	並	やや少	少	少	少	並	並	やや少	少	並	並
シロイチモジヨトウ	-	やや多	並	やや多	多	多	多	多	多			

## 4 果樹

## (1) ナシ (4～9月下旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
黒星病	発病果率	多	やや少	やや少	少	並	-
炭疽病	発病新梢率	並	並	並	並	やや多	やや多
シンクイムシ類	被害果率	並	並	並	並	並	-
ハマキムシ類	被害果率	-	並	やや多	並	並	-
ハダニ類	寄生葉率	並	並	並	並	やや少	やや少
吸ガ類	被害果率	-	並	並	並	並	-

## (2) カンキツ (温州ミカン) (3～11月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
かいよう病	発病葉率	並	並	並	並	並	-	-	-	-
かいよう病	発病果率	-	-	-	並	並	並	並	並	-
そうか病	発病葉率	やや多	多	多	多	多	-	-	-	-
そうか病	発病果率	-	-	-	多	並	多	並	並	-
黒点病	発病果率	-	-	-	並	並	並	少	並	-
ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率	やや少	少	やや少	やや少	多	並	やや多	多	多
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率	並	並	並	並	やや多	やや少	やや少	やや少	-

## (3) ビワ (3～5、9～10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月		9月	10月
灰斑病	発病葉率	やや少	多	多		多	多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	やや多		並	並
カミキリムシ類	被害穴数	並	並	やや少		やや少	並
カメムシ類	寄生果率	-	並	並		-	-

(4) 果樹共通：果樹カメムシ類（フェロモントラップ調査）

病害虫名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カメムシ類	並	やや少	並	並	やや少	やや多	並
シンクイムシ類	並	多	多	多	やや多	多	多
ハマキムシ類	やや多	並	並	並	並	少	並

5 花き

(1) カーネーション（9～3月下旬調査）

病害虫名	調査項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月
立枯病	発病株率	並	やや少	並	並	やや少	並
萎凋病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並	並	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	やや少	並	並	並	並	並

(2) ストック（10～2月下旬調査）

病害虫名		調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
施設	コナガ	幼虫寄生株率	やや多	並	並	並	多
	ハイマダラメイガ	幼虫寄生株率	多	多	並	並	並
露地	コナガ	幼虫寄生株率	やや少	並	並	やや少	並
	ハイマダラメイガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並	並

菌核病、アブラムシ類、発生認められず。

● 特殊報、注意報、発生情報の発表状況

1 特殊報

- 令和5年5月24日 第1号 インパチェンス類べと病の発生について
- 令和5年9月4日 第2号 国内未記録種の *Heterodera cruciferae* の発生について
- 令和5年9月15日 第3号 パセリ葉先枯病（仮称）の発生について
- 令和5年10月6日 第4号 トマトキバガの確認について
- 令和5年10月20日 第5号 タテスジヒメジンガサハムシの発生について

2 注意報

- 令和5年8月1日 第1号 大型斑点米カメムシ類（特にクモヘリカメムシ、イネカメムシ）による斑点米発生に注意
- 令和5年12月20日 第2号 トマト黄化葉巻病の発生に注意

3 発生情報

- 令和5年8月3日 第1号 「トルコギキョウ葉巻病」の発生拡大について
- 令和5年9月22日 第2号 イネ縞葉枯病とヒメトビウンカの発生状況について

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：4月上旬、果樹・花き：3月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.01	1.33	0.06	前年7月調査  前年6月調査 前年6月調査 前年6月調査	
		イネゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.12	0.22		0.03
		イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.01	0.07		0.06
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ スクミリンゴガイ	25株当たり寄生成幼虫数	0.17	0.67	0.01		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	4.74	1.79	2.23		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	2.23	1.42	0.37		
		25株当たり寄生成幼虫蛹数	2.34	4.92	4.17		
		被害株率(%)	2.57	1.29	1.26		
	1㎡当たり貝数	0.42	0.24	0.44			
冬春トマト (海匠、長生)	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	2.83	0.40		
		灰色かび病	発病株率(%)	14.80	14.48		20.40
		発病果率(%)	0.08	0.30	0.38		
		果実発病度	0.40	1.72	2.00		
	すすかび病	発病株率(%)	0.00	0.25	0.40		
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08		0.00
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	0.15	0.21		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.92	0.00		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.80	0.12	0.40		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.42	3.67	0.93		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.36	0.00		
アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00			
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	4.00	1.78	2.40		
		灰色かび病	発病株率(%)	0.80	1.84		0.80
	黒腐病	発病度	0.00	0.10	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	2.47	5.60		
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.21	0.00		
トンネルスイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.20	0.22		0.60
	ハダニ類	成虫寄生葉率(%)	0.20	0.14	0.60		
ハウススイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00		0.00	2021年～ " "	
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00			0.20
	ハダニ類	成虫寄生葉率(%)	0.40		0.60		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.20	0.04	0.12		
		かいよう病	発病度	0.00	0.04		0.00
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率(%)	7.20	4.50	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	2.75	3.10	0.75		
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00		0.00
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.08	0.00		
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.80	1.16	0.00		
		立枯病	発病株率(%)	0.00	0.80		0.00
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	2.40	1.04	0.00		
		被害株率(%)	12.80	10.48	0.80		
	ハダニ類	黄色粘着トラップ誘殺数	3.56	6.08	0.71		
	成虫寄生株率(%)	0.00	1.92	0.00			

### トラップ月間誘殺数（3月）

種類	害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭/日）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	0.19	0.65	0.46	
性フェロモン	ハスモンヨトウ	海匠	0.05	0.05	0.11	

## ○気象予報

4月11日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

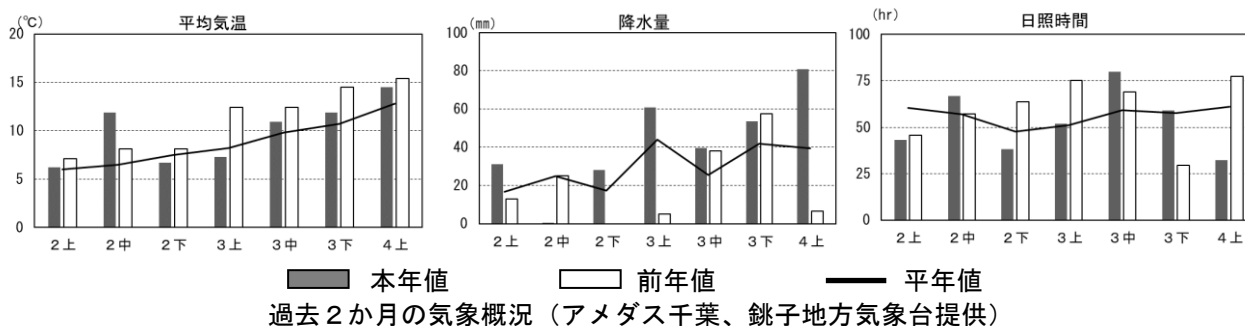
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(4月13日～5月12日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.4	15.4	16.3
降水量(mm)	100.6	116.2	145.0
日照時間(hr)	175.8	181.9	179.1



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は5月17日です。  
なお、注意報等臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

